

☆作業日あれこれ

新年最初の第2土曜日(14日)は、みぞれの様な雨がしとしと降る朝から始まりました。寒い時期にこの雨…今月の参加者は少ないなどの思いが脳裏をよ



子どもだけで探検！モリイコ！

ぎりましたが、観察会が始まる頃には新人の女性二人も含めてそれなりの人数(最終的には40人程)となりました。ありがたいことです。

今回は、成虫で冬を越すアメンボはどこにいるかという内容です。表面張力の説明によく使われた水面に浮かんでスイスイと移動するアメンボは知っていますが、冬を成虫で過ごすとは知りませんでした。ならばとスタッフは前日、水辺の周りの落ち葉の裏などを根気よく探したのですが、見つからなかったそうで、身近な生物にもかかわらず生態がよくわかっていないとのこと。夏にアメンボにマーキングすると次の春にも同じ水辺で観察された記録もあるので水辺の近くで冬越ししているらしいのですが、目撃例はほとんどないそうです。水面に浮いている姿ばかりが強烈で、うっかりしているとアメンボには羽があり比較的自由に移動できるということを忘れてしまっていることに気付かされます。参加者一同も水辺でアメンボの冬越しを探すことになったのですが、当然のこととして見つかりません。アメンボはあの匂いが強烈で戸袋などに集団越冬するカマシの仲間だから同様に集団越冬するかもしれないだろうとの声もありましたが、アメンボの冬越しは未だ謎だらけです。野に出たついで、七草粥の日は過ぎていきましたが、春の野に出、若菜を摘むかのように草の姿を観察すると、この季節、葉を付けた草は茎を中心にして地面に放射状に葉を広げて八重咲の花に似た形(ぺット)が目立ちます(ぺットの語源はバラの花・ローズからとのこと)。貴重な冬の陽を効率的に受け、寒さから身を守るのには地面に張り付いた形は、冬をやり過ごすのに合理的な形です。クボボやオハコは夏もこのぺット型ですが、暖かくなって

他の植物が成長すると地面に葉を広げたぺット型植物は日陰になり生存できませんので、俗にいうセイヨクタンポポは他の植物が侵入しにくい乾燥した場所(ゴボウのような地下茎で水分を確保)、オハコは人などの踏圧にも耐える性質で道端などに生存の場をそれぞれ確保しています。在来のカボポは、草丈で負ける夏には夏眠してやり過ごす方法で草原の中に生きています。一方、冬をぺット型でやり過ごしたハジメなどは、春になると一足早く茎を立ち上げ、種や地下茎から成長する植物に打ち勝ちます。大先生によれば大根や白菜もぺット型で、春になれば花を付ける茎が伸びるのをご存知の方も多いと思います。昔、「白い菜の花！」とのあこがれの都会育ちの女子中学生の声に、「違う、あれは大根の花や！」と応え、「田舎の子やね」言われたことが思い出されました。



親子でマツチ

この日の作業は落ち葉掻きが水分を含んで重くなっているので中止、ベテラン勢は南入口周辺のササの機械刈り、毎年、森に春を告げるウメの木の周りも刈り込まれました。太平洋側では30日以上降水がなく乾燥していますが、この地域では幾度か積雪があり、タケや枯れ枝、カキミシの被害を受けたアラシなどが雪の重みで折れ、竹林整備班と枝の後片付けをする班が作業をしました。

昼食班はおやつに新年恒例のぜんざいを出す準備と並行して、ブリ大根や豚汁、炊込御飯の仕込みと慌ただしく作業をしていました。遊林会の料理長・松本さんが前日より丹誠込めて煮込まれたふっくらとした黒豆が抜群の味！この日の「頂きます」は、中学生の頃より参加していつの間にか大学生になった若者による唱和、彼が乾杯の発声ができるまであと一年です。

この日は、愛知県内の自治体より公園として整備された里山の管理と利用について4名の視察がありました。遊林会の活動が長く続いている理由もお昼の雰囲気をご覧になられて得心、午後からは作業に参加していただき、共に汗を流していただきました。

2月の作業日は

2月22日(水曜日) 週日活动 森の居酒屋は2月8日 午後7時頃～
9時～(遅刻可)

主 催 者 : 遊 林 会

連絡先 (遊林会事務局) : 滋賀県 東近江市 河辺いきものの森 Tel 0748-20-5211 Fax 0748-20-5210

URL : <http://www.yurinkai.org/>

E-mail : ikimono@e-omi.ne.jp

森のブログは「かわべえフトク」で検索！

水曜の作業は18人が参加。朝は猛烈に冷え込みましたが、日中は作業に好適な日となりました。この日も、現在集中的に手を入れている「ケヤキの林」での作業です。これまではタノキやシュロを切る作業が中心で、この日もそうした作業を行いました。それは、ツルが縦横無尽に生えているところを一気にきれいにしようという作業です。ツルといっても手で引っぱって切れるようなものから、ノギリで切らないといけなような太さの物まで様々で、しかも切ったあとの持ち運びも容易ではありませんのでたいへんな手間がかかります。種類で言えば、この区域に多いアオツヅラフジやクスノキの他にも、スイカズラやデウソク、アケビ、フジなどが複雑にからみ合っています。しかし最も手を焼いたのはノイバラで、その鋭いゲにはかなり苦労しました。

このツルだらけの区域は、長い間、遊林会でも作業を躊躇し続けてきた場所で、かなり荒れてきていたのですが、この日は午前も午後もうこうした作業にかかり、おかげでかなりすっきりしました。

お昼は、あったかカレー鍋、季節のお野菜、イベントの試作のモリイコロールでした。

ちなみに、この日の作業ですっきりとさせた区域は、これまで放置しておいたタノキやセンダングサが大木化し、おまけにツルがはびこっていたこともあって、生えてきてほしいと願っていたケヤキやドングリの木が、まったくといって良いほど生えていなかった区域です。この森では植栽をしてまで森を保全することは基本的に行っていませんでしたが、さすがにこの区域は期待する樹木の生育も見込めないため、これからケヤキやドングリの木を植えていこうと思っています。もちろん、その植栽苗は、この森の中で育ってきた苗で、いずれ間引かねばならないほどたくさん生えている区域から掘り取るのです。なおここに植えようと思っているドングリの木は、この森では数が少ないナガシバを予定しています。

★1月の木ままクラブ

気軽に気ままに木曜日に活動する木ままクラブ。1月は1回の活動を行いました。

1/19 12人 引き続いて、ケヤキの林付近でタノキ、ツル、そしてシュロの伐採を行いました。

2月は2日、16日が活動日です

★河辺いきものの森スタッフルーム情報

2012年の始まりは今年も雪。全員での初仕事は雪かきからはじまりました。今年は1月7日からモリイコ！の活動があったので、年始早々子どもたちの元気な声が森中に響き渡りました。

1月のはじめはひたすら会議。モリイコ！やイベント、学校来訪のプログラムを考えたり来年度の話

など、議題は山のようにあります。その中で…来たる3月19日に河辺いきものの森はオープンして10周年を迎えますが、残念なことに、ちょうどその日は月曜日で休館のため、そのあとの春休み期間に何か大きなイベントしたい!と思っています。森に何度も来ている人や、森のことをあまり知らない人など、さまざまな人に楽しんでもらえるイベントを行う予定ですので、また正式に決まりましたら、この通信やHPなどでもお知らせしようと思いますので楽しみに!

1月29日には、大阪から19組の家族が森に来られ、「森を歩こう!たき火をしよう!」というイベントを行いました。このイベントは大阪市環境事業協会という団体が、大阪市の子どもたちをこの森に連れてきたいということで開催に至りました。予報は曇りでしたが、当日になってみると、晴れ!森を歩くにはとってもよい日となりました。まずは森の話聞いてクイズラリーに出発です。冬芽や木の実、いきものの問題をお家の人と考えながら森を1周歩きます。歩いているとモグラのトンネルを見つけたり、青い実を見つけたり…子どもだけでなく大人の方もさまざまなものを見つけて楽しそうでした。お昼からは、たき火をしてモリイコロールを作りました。自分たちでたきぎを拾い、マッチをすって炭火で何かを焼くなんて初めての子どもも多かったので、親子で協力しながら、ドキドキワクワク終始にぎやかに時間が過ぎていきました。イベントの内容も楽しかったという意見をたくさんいただいたのですが、大阪の子どもたちには“雪”がとても珍しかったようで、手を真っ赤にしながら雪で遊んでいたのが印象的でした。

★モリイコ！の子どもたち

モリイコ！は8回目の活動を終えました。8回目のテーマは「チャレンジ」で、みんなでファイヤーサークルに火を点けたり、図鑑を使って木を探したり、午後からは初めて子どもたちだけで森に行き、色々な「ちょうせん」をしたり、普段森に来る小学生や大人の方もやったことが無いような少し難しいことにたくさん挑戦してもらいました。子どもたちだけでの探検は初めてでしたが、協力して全部クリアすることができました。地図を読んだり小さい子の面倒を見てあげたり、みんな少しずつ頼もしくなっているようです。

★2月の作業は…

前回できなかった落ち葉かきをぜひしたいですが、天候次第…お昼ごはんは、寒いので心身共に温まるものです!

容器やコップは数に限りがあります。食器の持参をお願いします!